

自己認識についての仮説

チ・コスタンゾ・ジュセッペ

私たちは皆、決断をします。しかし、確かな意識や自由のもとで決断をしている人はほとんどいません。人は、自由であるとも意識的であるとも言えないのです。人は、偏見や社会的背景、歴史的背景などから完全に自由になることはできません。しかし、私たちはその事実をくつがえすことができます。ここで、大切になるのは、「自分自身との向き合い方」です。小さなことかもしれませんが、とても大切なことです。今から、そのことについて話したいと思います。

ある 1 人の学生は、熱心に勉強し、自分自身もしくは教師と一緒に答えを探し、学んだことに疑問を持ち、学習を振り返り、大学の学位を取得する学生です。もう一人は、必要最低限のことだけをして学位を取得する学生です。学位を取得する点では似ているように見えるかもしれませんが、2 人はまったく異なる人生を送っています。

私たちが真に生きようとするのなら、私たちを取り巻くすべてのものや私たちの中にあるすべてのものに意識を向けなければなりません。例えば自分の願い、自分の文化、自分の感情などです。そしてそれらのほとんどは、選択の余地なく、決められてしまっています。私たちは、長い間、周囲の環境に形作られ、影響を受けています。私たちが好きな食べ物、私たちが従う伝統、趣味、私たちが持つ体、私たちが話す言語、私たちが共に育った人々などです。

もう一度考えるべきです。立ち止まって考える必要があります。私はどれだけ自分自身を好きか？何が好きか？どのように好きなのか？何を变えていくとよいか？なぜ？何と戦い、何を受け入れるべきか？なぜ？私は何を追求すべきか？なぜ？絶え間ない、自分への問いかけです。それは真に生きていると言え、私たちが持つすべてのエネルギーと時間を必要とします。あなたは未知の風に吹かれる人生と、風を見て感じそして理解し、自分と他人のどちらに吹くかを自分で決めていける人生のどちらが良いと思いますか？

ありがとうございました。